

分くらい動員となった。動員と決まるや、各科で壮行会をやり、我々は毎晩騒いだ。暴れたい連中は裸になって、箆の幟を立て、石油缶を叩きながら上野駅構内の広場へ行って騒いだ。ヨカチンも踊った。出陣前なので人々は大目に見たようだが、東京駅まで繰り出した生徒たちは、すっ裸で踊って憲兵につかまった。皇居に近いせいだったらしい。

例の代々木の壮行会には全部参加した。雨の中を独特の旗を立てて行き、目立って仕方なかった。が、さすが美校！ という感じであった。私の場合は兄弟四人とも学徒出陣ということで新聞に出たりした。

十九年一月になると、地方出身者は郷里へ帰ってそこから出兵する。そして、みな散り散りとなった。



昭和18年3月23日、池袋パルテノンのアトリエにおける海軍へ行く生徒の壮行会にて(草野睿三氏提供)草野睿三、八幡健二、野々村一男、宮沢義郎その他本校生、卒業生の外に落語家小さん、講談師大島伯鶴夫人、同息子等々が写っている。

(二)昭和十九年六月一日、いよいよ入隊の当日となり、我が家では親子の別れがあり、父に手伝って造った庭の前で記念の写真を撮った。……上野駅東口広場はすでに各大学の出陣学生と送る者の人波でごった返していた。各校は出陣学生の数も多く、それぞれ円陣を作り、運動部の旗を翻し、そして声を限りに、何時もは歌えない応援歌を唱い、意気軒昂たる熱気にわき返っていた。

その中で我が美校生は征く者十名足らず、送る側も十数名で伝統のボロ服多く、中には何を考えているのか農民一揆の箆旗を担いで寝巻姿の者もいる状態で、余り氣勢が上らない。これでは先輩に申し訳ない、一丁やるかと寝巻姿が、やおら素裸になって「アーリヤララ、一つよかちゃんなんじゃるな……」と気合を入れて腰をふりふり全員で踊り出す始末、周囲もこの奇妙な気違い集団に気付き始め人の環が広がり出した。注目が集まればそれに乗るのが美校生の性、然しやっとな調子の出た頃には監視中の鬼より怖い憲兵の目に止まり「カラー貴様らなにしちよる」の大音声でサーベル片手に腕章を巻いた軍服が向って来る様子で、裸の連中は着物を抱いて蜘蛛の子を散らす様に人ごみの中を逃げ回る。その滑稽な様子に腹を抱えながら、私達も捕まるのは面倒と日の丸を背にしょって逃げた。

これこそ美校生の真骨頂と、久し振りの「チャカホイ節」に溜飲を下げて、私達は元気を出して汽車に飛び乗り、上野の山を後にしたのである。

⑮ 日本美術及工芸統制協会

臨戦体制強化に伴い、昭和十八年六月二十六日、社団法人日本美術及工芸統制協会（美統）が組織された。定款には目的と事業内容が次のように記されている。

第三條 本會ハ皇國文化ノ精華タル美術及工藝技術ノ保存竝ニ振興ヲ圖リ、之ガ製作、販賣、交易等ニツキ國家目的ニ即應シタル綜合的指導統制ヲ行ヒ併テ一般工藝産業ノ健全ナル發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲左ノ事業ヲ行フ

一、藝術保存ヲ要スル美術品ノ製作者竝ニ技術保存ヲ要スル工藝品及其ノ生産者ノ認定

二、美術品及工藝品ノ原材料ノ配給統制

三、美術品及工藝品ノ販賣統制（書畫骨董ヲ含ム）

四、藝術保存又ハ技術保存ヲ要スル工藝品ノ生産數額ノ割當竝ニ其ノ登録及證紙ノ發行

五、技術保存ヲ要スル工藝品ノ検査、格付及販賣價格ノ決定

六、生活必需工藝品ノ改善及規格ノ統一竝ニ優良生活必需工藝品ノ選定

七、美術品及工藝品ノ製作ニ必要ナル附屬技術者ノ指導統制

八、美術品及工藝品製作ニ必要ナル用具ノ生産指導竝ニ配給統制

制

九、本邦美術品及工藝品ノ海外紹介竝ニ輸出ノ斡旋

一〇、内外ニ於ケル美術及工藝ニ關スル展覽會ノ開催又ハ後援

一一、美術及工藝ニ關スル指導奨勵及調査研究

一二、其ノ他本會ノ目的達成上必要ナル事業

このように、美統は美術および工芸界を国家目的に即応する体制に組み込むことを目的として成立したもので、製作者、生産者の認定、原材料の配給および作品販売の統制といった作家、生産者の生活に直接影響する事柄を司どることになった。日本画、油絵・水彩、彫塑、工芸美術、産業工芸の五部会が置かれ、左記の十七名が役員に選ばれた。

会長 吉野 信次 理事長 児玉 希望

理事 豊田 雅孝 阿原 謙蔵 橋本 政実

山口 蓬春 木村 莊八 辻 永

石井 鶴三 加藤 顕清 山崎覚太郎

高村 豊周 中村 忠充 国井喜太郎

日野 厚

監事 太田 三郎 大島 永明

本校工芸部教官の高村豊周と山崎覚太郎は夫々施設部長、審議室主査兼販売統制部長として美統に深く関わった。また、他の教官も多くが部会委員として名を連ねた。

#### ⑯ 金属回収と本校の銅像

昭和十六年八月金属類回収令公布以後、軍需物資生産のための金属回収が始まり、十七年五月には寺院の仏具、梵鐘等の強制供出が命ぜられ、本校の銅像も危機に直面した。

昭和十八年六月七日、本校長は文部省総務局長より